

文化財 ニュース

4 Spring 2013

■ 千代田区 新指定文化財特集号

平成25年度 千代田区指定文化財

有形文化財(考古資料)

せい がん いん あと しゅつ ど し りょう
 栖岸院跡出土資料 140点

有形文化財(絵画)

し ほん ちゃくしよく かん だ みょうじん さい れい ず まき
 紙本着色神田明神祭礼図巻 3巻

詳細は2ページへ



「紀元式千五百三十七年六月造」
と刻まれた親柱

常磐橋は、小石川門の石垣石材を使い、大理石による親柱に洋風の笠を付けるなど、伝統的な石造技術を基盤としつつ西洋的な意匠を取り入れた和洋折衷の石橋です。



明治初期の石橋・常磐橋の修復工事はじまる

江戸時代の常磐橋門には木橋が架けられていましたが、萬世橋・鍛冶橋・呉服橋など旧来の外郭諸門を木橋から石橋に架け替えられる中、常磐橋は明治10年(1877)に2連アーチ石造橋として造られました。この橋は関東大震災復興により他の明治期の橋梁が架け替えるなか、東京の近代化を象徴する文化財として保存され、現在では都内で最も古い石橋となっています。

この常磐橋は、常磐橋門跡の石垣とともに東日本大震災で被災したため、千代田区では修復工事を行っています。橋の安全対策が終わり、今年度は石橋を解体し、保存修理を行います(工事の様子は見学できません)。(後藤宏樹)

Index

- 2 特集 平成25年度 指定文化財紹介
- 4 平成24年度 文化財特別展
「徳川將軍家の器」を終えて」
- 6 埋文ニュース 「紀尾井町遺跡の発掘」
- 7 新刊紹介 『千代田の古文書2
—御上洛御用留 旗本小笠原家資料 他—』
- 8 既刊報告書紹介 『あの日のぼくら
—区内幼稚園・小学校紙芝居関係
資料報告書—』

平成25年度 指定文化財紹介

千代田区教育委員会では、平成25年4月1日付にて、新たに2件を文化財として指定します。

教育委員会には文化財保護審議会が設置されています。教育委員会からの諮問により候補物件の中から調査を行い、文化財として指定することが適当であるとの答申を教育委員会に行いました。答申を受けた教育委員会では、所有者から同意をいただき、指定に向けての手続きを進めてきました。

以下では、2件の文化財について紹介します。(高木知己)

栖岸院跡出土資料 140点

種別:有形文化財(考古資料)

所有者:千代田区教育委員会

平成10年(1998)麹町五丁目の建設工事現場において確認された遺跡「栖岸院跡」から出土した資料群で、区内唯一の武家墓所の発掘資料になります。

栖岸院は京都知恩院末の浄土宗寺院で、当初長福寺と称し、天正19年(1591)に麹町に寺地を拝領して以来、大正9年に杉並区永福に転出するまで当地にありました(途中、安藤重信が埋葬されたため、栖岸院と改めました)。記録によれば、栖岸院は、安藤家・高木家・服部家の各家の菩提寺になっていました。

遺構としては、81基の墓址が確認され、埋葬に使用された甕棺や石室の蓋石、鏡の模造品・六道銭・煙管・木刀・扇・焼炉・土鍋・土瓶・土人形・玩具といった多くの副葬品など、合計956点が出土しました。このうち、140点(副葬品136点、甕棺4点)を文化財指定対象としました。

これらの出土遺物は、栖岸院が杉並へ移転した際に、残存したものと考えられます。

この「栖岸院跡出土資料」は、大名墓の特徴を有する、18世紀中葉から19世紀の江戸時代後期のまとまった状態で発見された墓址群から出土した副葬品等であり、江戸後期の武家の墓制や葬送を具体的に知ることのできる貴重な資料といえます。



検出状況



鷹匠をかたどった人形(幅5.5cm、高さ12cm、奥行4.0cm)



焼炉(径19.4cm、高さ12.8cm)・土瓶(最大幅13.2cm、高さ7.1cm)・土鍋(径10.1cm、高さ4.2cm)

紙本着色神田明神祭礼図巻 3巻

種別:有形文化財(絵画)

所有者:神田神社

神田神社が収集したもので、3巻あり、あわせて約50mの長さがあります。桐箱に納められ、保管されています。

内容は、江戸時代に神田明神の氏子町を隔年で巡行した神田明神祭礼の様子を描いたもので、描かれている祭礼番組、記述の内容などから江戸時代後期に制作されたものと考えられます。

祭礼行列を子細に絵画化し記録したもので、山車・附祭・曳き物など当時の祭礼風俗を伝える貴重な画証資料であり、町人の側からの目線で描かれた図巻といわれています。なお、制作者については、図巻には署名などが記されていないため、判明していません。

神田神社には、氏子町をはじめとする崇敬者からの奉納物をはじめ、さまざまな物件が保管されています。「紙本着色神田明神祭礼図巻」は、かつて千代田区内において行われた神田明神祭礼の様子を伝えるものであり、江戸時代後期の人々の生活と風俗・信仰などを考える上で貴重な資料です。



祭礼行列の第一番 大伝馬町の山車



雉子町の山車と附祭の桃太郎行列



曳き物の大なまずと要石

平成24年度 文化財特別展「徳川将軍家の器」を終えて

【展示のあらまし】

平成25年(2013)1月19日(土)～ 3月3日(日)までの41日間、日比谷図書文化館で、平成24年度文化財特別展として、「徳川将軍家の器」を開催いたしました。本稿では、この展示の企画・担当者として、展示の内容と来館者のご意見などについて、まとめてみたいと思います。

この展示には、「江戸城跡の最新の発掘成果を美術品とともに」というサブタイトルを冠しました。実は、展示の着想は、2011年に刊行の「江戸城の考古学Ⅱ」の整理調査を行なっていく過程で、徳川将軍家で明暦の大火直前に保有されていた本丸御殿の器が明らかとなってきたことで得られました。ところが、通常の発掘調査からではみられないような、国内外の美術館資料とも合い通じる一部の高級磁器について、果たして破片を並べて伝えることができるだろうか？という問題に突き当たったのです。そこで、当区としては、はじめての試みではありますが、発掘された江戸城の出土資料と美術品を一同に介して、その歴史的な価値を考えてみようとしたわけです。

展示品は、まず、江戸城跡で発掘された、江戸城本丸跡で保有されていたと考えられる、明暦大火を下限とする、食器群。次に、これらをより深く知る上でいくつかのトピックを設けています。ここでは、紙面の都合上、展示構成のみを示しておきます。展示では、「I 徳川将軍家の成立」、「II 将軍の城、江戸城とその御殿」、「III 肥前磁器の誕生と変遷」、「IV 中国磁器と肥前磁器」、「鍋島藩窯の成立と展開」、「VI 徳川将軍家の器」、「VII 大名たちの饗宴、江戸遺跡出土の器より」、「VIII 器をめぐる世界、将軍の御庭焼と婚礼の器」といった内容で列品いたしました。江戸城出土陶片とともに、佐賀県立九州陶磁文化館、有田町教育委員会、伊万里市教育委員会、東京国立博物館、出光美術館、大阪市立美術館、八王子市郷土資料館、東京大学埋蔵文化財調査室、東京都教育委員会、徳川記念財団、財団法人鍋島報効会、国立歴史民俗博物館などより借用した作品・資料とともにご紹介することで、将軍家の食器群の様相を目の当たりにできるように意図しています。ただし、将軍の城、江戸城についても理解できるよう、木製の江戸城の雛形(江戸時代)も展示しました。

なお、佐賀県の重要文化財として、図録の表紙にも掲載した「色絵椿文輪花大皿」、「色絵山水竹鳥文輪花大皿」の4作品のうち、後者についてはこのたび、国指定の重要文化財となるようです。

さらに、徳川記念財団より借りした、14代将軍徳川家慶の手造りの酒罎も大変めずらしいものでした。

【広報活動】

周知については、千代田区の広報や、日比谷図書文化館の広報誌ポモーンなどのほか、チラシ、ポスターを配布しました。また、雑誌「東京人」、「東京新聞」、などにも記事が掲載されました。



チラシ

ポスター(広報)

【講演会・講座】

展示期間中、2回の講演会と4回講座を行ないました。

講演会① 1/19:大橋康二氏(佐賀県立九州陶磁文化館)

講演会② 2/24:深井雅海氏(徳川林政史研究所)

講座① 1/31:担当学芸員 水本 和美

講座② 2/ 7:金沢 陽氏(出光美術館)

講座③ 2/21:杉谷香代子氏(戸栗美術館)

講座④ 2/28:堀内秀樹氏(東京大学埋蔵文化財調査室)



講演会①



展示解説の様子



講演会②



講演会③



講演会④

そのほか、2/16・17に近世陶磁研究会と共催で研究会を開催し、国内外各地から集まった研究会参加者に向けて、エクスカージョンを行いました。

【連携展示】

会期中には、出光美術館と当館で連携展示を行ないました。出光美術館に所蔵される、江戸城跡の出土資料に類する作品を出土資料の画像とともに、出光美術館にてみる事ができるものでした。

【ご来館者の声】

この「徳川将軍家の器」展の41日間の会期中、10,225名、一日平均249.4名の来館者がありました。この展示は、日比谷図書文化館がオープンしてから、千代田区主催の特別展としては、2度目の展示にあたります。

昨年度に行なった特別展「文化都市千代田」の来館者が、6,264名(1/17～3/11・会期53日間、1日平均118名)、企画展「東京～その復興の歴史～」の来館者7,973名(7/17～9/2・会期47日間、1日平均169名)ですので、はじめて1万人を超える来館者をお迎えしたことになります。もちろん、この数字のみを持って、展示の良し悪しを語ることはできないのですが、企画の段階では、この陶磁器というテーマで、お客様が来るのかを懸念する声や学芸員の間にもあったことを考えると、担当としてはひとまず安心したというのが本音です。

それでは、そのご来館者のみなさまから寄せられた声を、うかがってみましょう。10,225名のご来館者のうち、当館のアンケートにお答えくださったのは286名(2.8%)です。このみなさまの声をひろってみたい。



展示解説の様子



講座①



講座②

内容について、「大変よかった」と「よかった」を合わせると261名、91.2%の人がよいというお声をいただきました。このアンケートにお答えいただいた多くは(66%)が男性でした。これは、日比谷図書文化館が開館する際に行なった意識調査によって、文化財の展示に期待を寄せていただいたのは、多くが男性であったことと合致しています。年齢で見ますと、10代～80代までの幅広い世代にお越しいただいていますが、40代から70代が中心です。お住まいは、千代田区とその他の23区が59.1%、都心部に住まわれている方がいらして下さっているのがわかります。ただし、他府県からは34.6%のみなさまにお越しいただきましたので、近いだけの理由でいらしたのではないようです。

ちなみに、区で共催した「近世陶磁研究会」とのシンポジウムには、アメリカ、イギリス、フランス、ラオスなど海外からもご参加いただきました。国内でも、多くの展示品が並んだ佐賀県など九州各県はもとより、新潟、沖縄、関西、四国などと各地からのご参加をいただきこの問題への関心の高さがうかがえました。展示図録のキャプションは、英語表記を行いました。第2外国語だったフランス語をしっかりとっておけば…。と切に感じた次第です。

【刊行物案内】

展示図録【徳川将軍家の器】を販売中(1部1000円)です。ご興味のある方には、お買い求めいただけると幸いです。(水本和美)



A photograph of a rock surface showing several large, irregular, light-colored, rounded features, likely fossilized eggs or tracks, outlined in white. The rock surface is brown and textured. The features are outlined in white, and one of them is particularly prominent in the lower left.

江戸時代の遺構で特徴的なのが、直径1m近くある

(斎藤一真)

『千代田の古文書2—御上洛御用留 旗本小笠原家資料 他—』

平河天満宮は江戸時代、境内が盛り場としてにぎわい、

紙芝居というと、なにを思い出すでしょうか。夢中で遊んでいると、ふと鳴り響く拍子木の音。友達と競争して、水あめを白くこねたこと。あるいは、ひだまりのなか、幼稚園や保育園の先生が演じるお話や、目を輝かせて聞いていた友達の顔かもしれません。

平成6年、児童数の減少などによって統廃合した区内幼稚園・小学校が保存していた学校関係資料群の一部が、千代田区教育委員会に寄贈されました。これらは、明治以降の区内幼稚園・小学校の歴史や、千代田区の教育に関わる歴史を知る上で大変貴重なものであります。本報告書では、これらの資料群のうち、紙芝居に関する資料をまとめたものです。

昭和5年に街頭に現れた紙芝居は、あっという間に子どもたちの心をつかみました。娯楽として街頭紙芝居が人気を博する一方で、教育教材として紙芝居を活用しようという動きも現れます。千代田区教育委員会で所有している紙芝居は、この教育紙芝居で、昭和11年～昭和60年までの292点であります。これ



らは、かつて区内幼稚園や小学校で使用されてきたもので、昭和という時代の中で紙芝居が歩んだ歴史を概観できるものとなっています。本報告書では、これらの目録と、時代背景を含めた資料紹介とともに、千代田区における街頭紙芝居の実態に関する調査成果を論考とともに一冊(A4版・全148ページ・一部700円)にまとめました。

(小山貴子)

編集後記

本号で特集した新指定文化財の「紙本着色神田明神祭礼図巻 3巻」は、江戸時代後期の神田明神祭礼の様子を描いたもので、当時から多くの人々によって祭礼が行なわれていたことがわかります。それは今年5月に4年ぶりに行なわれた神田祭も同様で、神田神社やその氏子、そしてそれ以外の多くの人々のパワーが集結し盛大に行なわれました。このように都市の祭礼は、江戸時代から神社とその氏子町(産子町)、そしてそれに参加したり見物したりする人々によって構成され、引き継がれてきたといえましょう。

そのような都市の文化を形成する構造は、千代田区の文化や文化財のあり方を考えるうえでも重要な視点となります。それぞれを区内の事象として完結するのではなく、他地域との関わりを含めて捉えていく必要があると実感しています。(加藤紫織)



開館時間 月～金 10:00～22:00
土 10:00～19:00
日・祝 10:00～17:00

※企画展・特別展の観覧時間は異なる場合があります。

休館日 毎月第3月曜日
年末年始
特別整理期間

●東京メトロ丸の内線・日比谷線・千代田線 霞ヶ関駅 徒歩5分
●東京メトロ 千代田線・日比谷線「日比谷駅」徒歩約7分
●都営三田線 内幸町駅 徒歩3分
※当館に駐車場はございません。

文化財ニュース 第4号

発行日 平成25年6月3日

編集・発行 千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務局
〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4
TEL:03-3502-3348 FAX:03-3502-3361
HP: <http://hibiyal.jp/bunkazai/index.html>
e-mail: rekimin@vesta.ocn.ne.jp

印刷 株式会社 商華堂